

令和4年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

3年 環境科学科



香川県立高松南高等学校

環境科学科

◎科の目標

- ・環境に配慮した農作物の栽培と生産物の活用及び地域環境の創造・保全に関する知識と技術を学び、都市型施設園芸を中心とする農業技術者又は農業土木に関する業務に従事する技術者の養成を目指します。
- ・環境学習やコースに関する実験・実習を中心とした「農業と環境」「植物と環境」「測量」「農業情報処理」「総合実習」「課題研究」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「都市園芸コース」「環境土木コース」の2コースに分かれて学習します。

◎資格取得・進路

- ・トレース技能検定、危険物取扱者（乙種・丙種）、測量士補
小型車両系建設機械講習、ガス溶接
- ・大学、短大、専門学校への進学、公務員及び各種企業への就職

①都市園芸コース

◎「草花」「野菜」「果樹」「生物活用」など

自然環境との調和を図った都市型施設園芸に対応した知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	国語総合		現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		家庭基礎		農業と環境		総合実習				測量		L		H		R	
2年	現代文A	数学Ⅰ	作物		生物基礎		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅰ		数学A 造園計画		課題研究		総合実習		農業情報処理		野菜		果樹		草花		植物と環境		L		H	
3年	国語表現	世界史A	地理A		数学Ⅱ		農業情報処理		生物活用		生物基礎		体育		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		農業経営		課題研究		総合実習		野菜		果樹		草花		L	

・総合実習は時間割外実習2単位を含む。

・大学進学希望者は、2年で「数学A」、3年で「数学Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」を選択する。

②環境土木コース

◎「測量」「農業土木設計」「農業土木施工」「水循環」など

自然環境と調和した地域環境の設計や創造に必要な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	国語総合		現代社会		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		家庭基礎		農業と環境		総合実習				測量		L		H		R	
2年	現代文A	数学Ⅰ	水循環		物理基礎		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅰ		数学A 造園計画		課題研究		総合実習		農業情報処理		植物と環境		農業土木設計		農業土木施工		測量		L		H	
3年	国語表現	世界史A	地理A		数学Ⅱ		農業情報処理		水循環		物理基礎		体育		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅰ		農業土木設計		課題研究		総合実習		農業情報処理 社会基盤工学		農業土木設計		農業土木施工		L	

・総合実習は時間割外実習2単位を含む。

・大学進学希望者は、2年で「数学A」、3年で「数学Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅱ」を選択する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	国語表現	2	3年	環境科学科	全員

学習目標	国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
授業計画	1学期 1, 書いて伝える 2, 小論文・レポート入門 3, 自己PRと面接 2学期 4, メディアを駆使する 5, 声とコミュニケーション 3学期 6, 会話・議論・発表
学習方法とアドバイス	・授業に積極的に参加し、自分の考えを進んで発表する。 ・的確な表現をするために、辞書を活用する。 ・ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。 ・副教材を用いて、漢字・語句・語法の演習問題を解く。 ・様々な場に表現の機会を持つようにする。
評価の観点と方法	「国語表現」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】積極的に授業に参加し、不明な個所や興味のある内容を進んで調べたり、積極的な読書を通して自分の意見を表現できているか。 【話す・聞く能力】自分の考えをまとめ、相手に正確に伝えたり、相手の話を的確に聞き取ることができているか。 【書く能力】自分の考えを適切な表現を用いて表現できているか。 【読む能力】文章を正確に読みとることができているか。 【知識・理解】漢字・語句や文法等を理解し、適切に使用できているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「国語表現 改訂版」大修館書店 副教材 「国語表現 基礎練習ノート」大修館書店 「国語常識の総演習」京都書房

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	世界史A	2	3年	環境科学科	全員

学習目標	古代文明の学習をきっかけにして世界史に興味・関心を持ち、大航海時代を契機に世界が一体化していくことを理解する。近現代史では、人権や自由が尊重される市民社会がいかにして形成されたかを学ぶとともに、欧米列強による植民地支配の実態と影響について考察する。また、二つの世界大戦の学習を通して、過去の失敗から学んだ教訓や財産を未来に生かすことで、歴史教育の意義を理解する。そして、異文化理解の重要性を認識し、主体的に世界平和に寄与する態度を養う。				
授業計画	1学期 前近代の諸文明（東アジア、西アジア、ヨーロッパの文明など） 大航海時代の始まり アジア・アメリカへと進出するヨーロッパ 2学期 ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 世界を分割する帝国主義 第一次大戦がもたらしたもの 3学期 経済危機から第二次世界大戦へ 冷たい戦争の時代 地球社会への歩み				
学習方法と アドバイス	授業では、教科書・ノート・図説を活用して積極的に活動し、分からないところを質問し、歴史上の事件や人物について自分の考えを発表する。 復習やテスト前の学習に役立つように、丁寧なノート作りを心がける。 各自でテーマを設定し、図書館やタブレット端末等で調べたことをまとめ発表する。 ノートやプリントなどの提出物を、期限を守って提出する。 新聞やテレビのニュースに常に注意し、授業で学んだ事柄との関連を考える。				
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。 【思考・判断・表現】世界史の事象から課題を見いだし、その歴史的意義を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現しているか。 【資料活用の技能】世界史に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。 【知識・理解】世界が形成される過程や歴史事象を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートやレポートの提出状況などで総合的に評価する。				
使用教材	教科書 「明解 世界史A」 帝国書院 副読本 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	地理A	2	3年	環境科学科	全員

学習目標	現代世界の地理的諸課題を、地域性を踏まえて考察する事によって地理的認識を養う。 さらに、地理的な見方や考え方を身に付けることによって、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
授業計画	1学期 ・地球儀や地図からとらえる現代社会 ・人間生活を取り巻く環境 2学期 ・世界の諸地域の生活・文化 ・地球的課題と私たち 3学期 ・身近な地域の課題
学習方法と アドバイス	・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生のアドバイスもノートする習慣をつける。 ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。 ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確につかんでおく。 ・問題演習を通して、資料から論理的に考察する習慣を身につける。 ・自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにする。
評価の観点と 方法	「地理A」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】現代世界のさまざまな地理的事象について、関心を高めることができたか。意欲的に学習課題を追求し、作業等に取り組むことができたか。 【思考・判断・表現】現代世界の地理的事象から課題を見つけ出し、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察し自分の考えを論述できているか。 【資料活用の技能】地図や統計資料など地域に関するデータを収集し、それを適切に取捨選択しているか。また、選択したデータを加工し、適切に表現できているか。 【知識・理解】現代世界の地理的な諸課題について基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートなどの提出状況、出席状況 等を総合的に判断して評価します。
使用教材	教科書：「高等学校 新地理A」帝国書院 地図帳：「標準高等地図」帝国書院 副教材：「高等学校 新地理Aノート」帝国書院

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学Ⅱ	4	3年	環境科学科（進学）	全員

学習目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数および微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授業計画	1学期 3章 三角関数（測量士補の試験に対応するため3章から実施） 1章 方程式・式と証明 2学期 2章 図形と方程式 4章 指数関数・対数関数 3学期 5章 微分と積分				
学習方法とアドバイス	・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。 ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 社会生活において数学が果たしている役割に興味・関心を示し、事象を数学的に考察しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 さまざまな事象を数学的にとらえ、それらを論理的に追究し、解明しようとしているか。 【数学的な技能】 適切な記号や用語、グラフや図を用いて、論理が展開できているかどうか。 【知識・理解】 基本的な記号・用語・定理などを理解し、それらを使って推論が論理的に展開できるかどうか。 ○評価方法 ・定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ノート提出、出席状況、授業への取り組みなど、4つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書 「新編 数学Ⅱ」 （東京書籍） 副教材 ニュージャスト 数学Ⅱ （東京書籍）				

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	物理基礎	2	3年	環境科学科 (環境土木コース)	全員

学習目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
授業計画	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1学期 1章 熱 2章 波 2学期 2章 波 3章 電気 4章 エネルギー	3学期 4章 エネルギー	
学習方法と アドバイス	・予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。 ・授業は積極的に取り組み、しっかりと自分の意見を発表したり、他人の意見を聞いたりして、復習・定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。 ・復習として、教科書と読み、問題集を利用して、あきらめずに取り組むこと。 ・提出物の期限はきちんと守ること。		
評価の観点と 方法	「物理基礎」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】物理的な事物・現象に関心や探求心をもち意欲的にそれらを探求できているか。 【思考・判断・表現】物理的な事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、分析的、総合的に考察したりして問題を解決し、科学的に判断できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、物理的な事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けているか。 【知識・理解】観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。		
使用教材	教科書 「改訂 新編 物理基礎」 問題集 「ニューサポート 改訂 新編 物理基礎」	東京書籍 東京書籍	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物基礎	2	3年	環境科学科 (都市園芸コース)	全員

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を習得する。				
授業計画	1学期 第3章 体内環境と恒常性（続き） 2学期 第4章 植生の多様性と生態系 3学期 第4章 植生の多様性と生態系（続き）				
学習方法とアドバイス	・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・ 授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。				
評価の観点と方法	「生物基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 新生物基礎」 第一学習社 問題集 「プログレス 生物基礎」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
保健体育	体育	3	3年	環境科学科	全員

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
授業計画	4月 体づくり運動 5月～7月 体づくり運動 I期選択 選択① 器械運動・ダンス・陸上 選択② バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 9月～11月 体育理論 II期選択 選択① 器械運動・ダンス・陸上 選択② バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 体づくり運動 12月～3月 体づくり運動 III期選択 選択① 器械運動・ダンス・陸上 選択② バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道
学習方法とアドバイス	選択種目については、教師の指導・助言を受けながら、各自・各グループで以下のような要領で自主的に学習を進める。 ・自分やグループの状態に適した目標の設定をおこなう。 ・その目標を達成するために、具体的な運動の課題を把握する。 ・その運動の課題を解決するために、合理的な練習計画を作成する。 ・計画にもとづいて実行した結果を評価し、つぎの課題や目標の修正に生かす。
評価の観点と方法	【関心・意欲・態度】・・・種目の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組んでいるか。個々の役割を自覚しその責任を果たし互いに協力して種目に取り組んでいるか。活動場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して種目に取り組んでいるか。 【思考・判断】・・・種目の問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 【運動の技能】・・・個人技能、集団技能など各技能のポイントをどのように習得しているか。 【知識・理解】・・・種目の特性や課題・合理的な練習の仕方を理解し、実践に生かそうとしているか。種目のルールや競技・審判の方法を十分理解するとともに、学習の中で効果的に活用することができるか。
使用教材	教科書 最新高等保健体育 大修館書店 副教材 ステップアップ高校スポーツ 大修館書店

	種目（課題設定）	自己評価
1学期		
2学期		
3学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	4	3年	環境科学科（進学）	全員

学習目標	① 英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 ③ 英語を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、自国のこと、諸外国のことを知り、広い視野から国際理解を深める。
授業計画	1学期 Lesson 1 Birthdays, Here and There ～ Lesson 3 The Sagurada Familia 2学期 Lesson 4 Nobel Prize Episodes ～ Lesson 7 The Galapagos Islands 3学期 Lesson 8 Shodo, Old and New ～ Lesson 9 Water World ＊実際の授業は種々の都合によりこの通り行われないことがある。
学習方法とアドバイス	① 予習として教科書の本文を読み、分からない語句を辞書で調べておく。 ② 言語活動を通して内容の理解を深め、積極的に自分の考えや意見を発表する。 ③ 本文の意味を理解した後に音読を行い、繰り返し英文を書いたり、声に出して読んだりする。 ④ 文章全体の大意をつかみ、概要や要点をまとめる。 ⑤ 新出の文法事項や語句について、参考書の関連箇所ですらに理解を深めるようにする。
評価の観点と方法	コミュニケーション英語Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、授業に参加することができる。 【外国語表現の能力】 情報や考えなどを、表現の方法を工夫しながら英語で話したり書いたりすることができる。 【外国語理解の能力】 教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法や単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト、出席状況等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 VISTA English Communication Ⅱ 三省堂 副教材 VISTA English Communication Ⅱ Workbook 三省堂 デュアルスコープ総合英語 新訂版 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	英語表現 I	2	3 年	環境科学科（就職）	全員

学習目標	① 基礎的な文法事項に関する知識を身につける。 ② 情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書くための基礎的な能力を伸ばす。 ③ 論理の展開や表現の方法を工夫し、考えや意見などを伝える能力を伸ばす。 ④ これらの能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
授業計画	1 学期 LESSON 1 ～ LESSON 6、Gトレ+1 （【現在形】【過去形】【進行形】【未来表現】【現在完了形】【現在完了進行形】） Speaking Station1、Daily Conversation① 2 学期 LESSON 7 ～ LESSON 12、Gトレ+2、Gトレ+3 （【助動詞】【不定詞】【動名詞】【受動態】） Speaking Station2、Daily Conversation② 3 学期 LESSON 13 ～ LESSON 14 （【分詞】【関係代名詞】） Speaking Station3、Daily Conversation③ * 状況に応じて LESSON をピックアップしながら進めていく。
学習方法と アドバイス	文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理する。 それらの知識を活用して、初級レベルの英作文に取り組む。 簡単な英文で自分の考え、意見などを表現する能力を高める。 基本的な表現を口頭で再生しスピーキングの能力を高める。 様々な場面に相応しい表現ができるように、簡単な自由英作文にも取り組む。
評価の観点と 方法	英語表現 I では次の観点から評価する。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習・復習や辞書を引くことが習慣的にできる。 【外国語表現の能力】授業に積極的に参加し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりする。 【外国語理解の能力】授業に積極的に参加し、情報や考えなどを英語で的確に理解できる。 【言語や文化についての知識・理解】基本的な英文法、単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年 5 回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト、出席状況等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 SELECT I English Expression New Edition 三省堂 副教材 SELECT I English Expression New Edition ワークブック 三省堂 デュアルスコープ総合英語 5 訂版 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期中間		
1 学期期末		
2 学期中間		
2 学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	課題研究	2	3年	環境科学科	全員

学習目標	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。
授業計画	1学期 オリエンテーション、講座の編成、研究テーマ(課題)の設定、 資料の収集、年間実施計画・研究計画の作成 実施(各自の計画に基づいて、栽培・生育調査、実験・実習等) ※職業資格の取得・・・テキスト利用による講義・問題演習・試験 2学期 研究結果の中間まとめ、資料の整理 実施(各自の計画に基づいて、栽培・生育調査、実験・実習等) ※職業資格の取得・・・テキスト利用による講義・問題演習・試験 3学期 資料の整理、まとめ、報告書の作成、発表会、反省と今後の課題
学習方法と アドバイス	・果樹、野菜、草花、測量、施工、職業資格の取得、産業現場実習等の講座を開講します。 ・個人又はグループが研究テーマ(課題)を設定し、各自の計画に基づいて調査・研究、実験・実習及び職業資格の取得等に取り組みます。 ・実施記録簿(研究テーマ、本日の目標、研究内容、観察・調査事項、反省・感想、自己評価等)を毎回ていねいに仕上げ、期限を守って提出しよう。その際、データの記録・処理・分析をおろそかにしないようにしよう。 ・実習や講義には積極的に参加し、わからないことは質問するようにしよう。
評価の観点と 方法	「課題研究」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 農業について関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけているか。 【思考・判断・表現】 農業について思考を深め、農業に携わる者として適切に判断し、表現する能力を身につけているか。 【技能】 農業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 農業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、毎学期末に研究態度、記録簿(報告書)の内容・提出状況、出席状況などで総合的に判断して評価します。
使用教材	すべての教科書を総合的に利用します。

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	総合実習	4	3年	環境科学科	全員

学習目標	農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、管理能力や企画力など農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を身に付ける。
授業計画	総合実習の内容は、次の通りとする。 3年次 経営管理総合実習 専門技術のうえに経営管理技術を習得する。各コース・部門ごとの専攻学習を行う。 3年次においては、年間を通して、次の各コース・部門ごとの学習を行う。 ・都市園芸コース（専攻方式） 【果樹、野菜、草花】 ・環境土木コース（ローテーション方式） 【設計製図・CAD、施工管理、資格取得】
学習方法とアドバイス	・総合実習は時間割内総合実習（2単位）と時間割外総合実習（2単位）に分けて実施します。 ・時間割外総合実習は通常農場当番とよび、普通（平日）当番と休業日当番からなります。 ・基礎的・基本的な技術を確実に習得するために、技術の役割を理解し繰り返し学習しよう。 ・実践的な能力と態度を確実に身に付けるために、自ら発見し、分析・工夫するとともに、班員と協力し合うことが大切です。 ・時間割内総合実習では実習手帳（実習内容、観察、調査、反省・感想等）を毎回ていねいに仕上げ、期限を守って提出するようにしよう。その際、観察・記録・分析をおろそかにしないように。 ・実習には積極的に参加し、わからないことは質問するようにしよう。
評価の観点と方法	「総合実習」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 農業について関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけているか。 【思考・判断・表現】 農業について思考を深め、農業に携わる者として適切に判断し、表現する能力を身につけているか。 【技能】 農業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 農業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、毎学期末に原点（実験・実習に対する態度、技能、服装、勤勉、責任感など）、実習手帳（実習内容、観察、調査、反省・感想等の記録状況を点検）、農業鑑定競技（観察ノートの記録状況を点検）、出席状況、服装などで総合的に判断して評価します。
使用教材	すべての教科書を総合的に利用します。

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	農業情報処理	2	3年	環境科学科 (環境土木コース)	選択

学習目標	情報処理に関する知識と技術を習得するとともに、実際の業界で使われているCADについて活用する能力と態度を養う。
授業計画	1学期 コンピュータによる情報の活用 ・日本語ワードプロセッサの利用 ・表計算ソフトウェアの利用 ・図形ソフトウェアの利用（CAD） 2学期 ・図形ソフトウェアの利用（CAD） ・プレゼンテーションソフトウェアの利用 3学期 農業における情報の活用
学習方法とアドバイス	・事前に教科書を読んでおき、内容や操作方法を勉強しておくようにしよう。 ・授業での説明や実際に操作する時の要点をノートや教科書に記入しておくようにしよう。 ・反復練習をして、実技を習得しよう。 ・復習をして自分のノートを作っておくようにしよう。
評価の観点と方法	「農業情報処理」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】学習に関心を持ち、学習意欲を持って授業に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】コンピュータを使って、情報を正しく処理することができているか。 【技能】コンピュータを使って文書や図表を作ることができるか。 【知識・理解】コンピュータの知識を記憶し、それを正しく理解しているか。 以上の観点から、実技を中心に、定期考査成績、ワークシート、学習態度等を総合的に評価します。
使用教材	・農業情報処理（実教出版） ・授業プリント等

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	農業情報処理	2	3年	環境科学科（就職）	全員

学習目標	・ 2年次での学習内容を深化し、情報処理に関する知識と技術を習得する。 ・ 農業の各分野で、情報及び情報手段を活用する能力と態度を養う。
授業計画	1学期 コンピュータによる情報の活用 （1）日本語ワードプロセッサの利用 2学期 （2）表計算ソフトウェアの利用 3学期 （3）プレゼンテーションソフトウェアの利用
学習方法と アドバイス	・ 事前に教科書を読んでおき、内容や操作方法を勉強しておくようにしよう。 ・ 授業での説明や実際に操作する時の要点をノートや教科書に記入しておくようにしよう。 ・ 反復練習をして、実技を習得しよう。 ・ 復習をして自分のノートを作っておくようにしよう。
評価の観点と 方法	「農業情報処理」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 学習に関心を持ち、学習意欲を持って授業に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 コンピュータを使って、情報を正しく処理することができるか。 【技能】 コンピュータを使って文書や表、データベースを作ることができるか。 【知識・理解】 コンピュータの知識を記憶し、それを正しく理解しているか。 以上の観点から、実技を中心に、定期考査成績、ワークシート、学習態度等を総合的に評価します。
使用教材	・ 農業情報処理(実教出版)

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	野菜	2	3年	環境科学科 (都市園芸コース)	全員

学習目標	主要な野菜の栽培と経営について実践的、継続的に学習し、各種の野菜栽培に応用できる体系的な知識と技術を習得するとともに、品質管理や栽培技術の改善点を指摘する能力と態度を身に付ける。
授業計画	1学期 スイカ カボチャ 2学期 イチゴ タマネギ 3学期 ダイコン
学習方法と アドバイス	・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを見つけておくようにしよう。 ・ 授業をしっかり集中して聞くようにしよう。 ・ 実習には積極的に参加し、わからないことはどんどん聞くようにしよう。 ・ 復習や定期考査前の学習に役立つようなノート作りをしよう。 ・ 提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出しよう。
評価の観点と 方法	「野菜」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】講義や実習内容に興味・関心を持って、意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】問題解決を目指して、自ら考え、学んだ知識や技術を活用するとともに、得られた成果を科学的に考察、表現できているか。 【技能】野菜に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を活用できるか。 【知識・理解】野菜に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、学習内容を理解しているか。 以上の観点から、年3回の定期考査、授業ノートや実習レポートの内容・提出状況、授業や実習に対する取り組み態度、出席状況などで総合的に判断して評価します。
使用教材	・ 野菜（実教出版） ・ 授業プリント等

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	果樹	2	3年	環境科学科 (都市園芸コース)	全員

学習目標	主要な果樹の栽培と経営について実践的、継続的に学習し、各種の果樹栽培に応用できる体系的な知識と技術を習得するとともに、品質管理や栽培技術の改善点を指摘する能力と態度を身に付ける。
授業計画	1学期 ウメ・スモモ・モモ・オウトウ 2学期 ブドウ・カキ・ブルーベリー 3学期 カンキツ
学習方法と アドバイス	・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを見つけておくようにしよう。 ・ 授業をしっかり集中して聞くようにしよう。 ・ 実習には積極的に参加し、わからないことはどんどん聞くようにしよう。 ・ 復習や定期考査前の学習に役立つようなノート作りをしよう。 ・ 提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出しよう。
評価の観点と 方法	「果樹」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】講義や実習内容に興味・関心を持って、意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】問題解決を目指して、自ら考え、学んだ知識や技術を活用するとともに、得られた成果を適切に表現できているか。 【技能】 野菜に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を活用できるか。 【知識・理解】 野菜に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、学習内容を理解しているか。 以上の観点から、年3回の定期考査、授業ノートや実習レポートの内容・提出状況、授業や実習に対する取り組み態度、出席状況などで総合的に判断して評価します。
使用教材	・ 果樹（実教出版） ・ 授業プリント等

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教 科 名	科 目	単位数	対象学年	対 象 生 徒	区 分
農 業	草 花	2	3 年	環境科学科 (都市園芸コース)	全 員

学習目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得し、草花の特性や栽培に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。				
授業計画	1 学期 (1) 生活と草花の利用 ① 生活と草花の利用 ② 園芸デザイン (2) 鉢物生産 ① 鉢物生産の特色 ② 鉢物の生産資材と商品化技術 2 学期 ③ 鉢花 ④ 観葉植物 ⑤ 洋ラン 3 学期 (3) 花壇用草花生産 ① 花壇用草花生産の特色 ② 花壇用草花の栽培				
学習方法と アドバイス	・ 講義と実習（観察・調査・実験）を取り入れながら授業展開します。 ・ 予習として教科書を読み、わからないところを見つけておくようにしよう。 ・ 授業をしっかりと集中して聞くようにしよう。 ・ 講義や実習（観察・調査・実験）には積極的に参加し、わからないことは質問しよう。 ・ 復習や定期考査前の学習に役立つようなノート作りをしよう。 ・ 提出物をていねいに仕上げ、期限を守って提出しよう。				
評価の観点と 方法	「草花」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 講義や実習内容に興味・関心を持って、意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 問題解決を目指して、自ら考え、学んだ知識や技術を活用するとともに、得られた成果を適切に表現できるか。 【技能】 草花に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を的確に活用できるか。 【知識・理解】 草花に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、学習内容を理解しているか。 以上の観点から、年5回の定期考査、授業ノートや実習レポートの内容・提出状況、授業や実習に対する取り組み態度、出席状況などで総合的に判断して評価します。				
使用教材	・ 草花（実教） ・ 授業プリント等				

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期中間		
1 学期期末		
2 学期中間		
2 学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	農業経営	2	3年	環境科学科 (都市園芸コース・就職)	選択

学習目標	・わが国と世界の農業の現状や動向について考え、さらには農業のもつ多面的な機能を理解する。 ・複式簿記による取引の記帳から決算までの仕組みを理解し、それをもとに経営の改善を図る力を育てる。
授業計画	1学期 1 農業の動向と農業経営 2 農業経営の組織と運営 2学期 2 農業経営の組織と運営 3 農業経営と情報 3学期 4 農業経営の会計
学習方法と アドバイス	・講義を中心に授業展開します。 ・予習として教科書を読み、わからないところを見つけておくようにしよう。 ・授業をしっかりと集中して聞くようにしよう。 ・積極的に参加し、わからないことは質問しよう。 ・復習や定期考査前の学習に役立つようなノート作りをしよう。 ・提出物をていねいに仕上げ、期限を守って提出しよう。
評価の観点と 方法	「農業経営」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】講義や実習内容に興味・関心を持って、意欲的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】問題解決を目指して、自ら考え、学んだ知識や技術を活用するとともに、得られた成果を適切に表現できているか。 【技能】農業経営に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その成果を活用できるか。 【知識・理解】農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、学習内容を理解しているか。 以上の観点から、年5回の定期考査、授業ノートや実習レポートの内容・提出状況、授業や実習に対する取り組み態度、出席状況などで総合的に判断して評価します。
使用教材	・農業経営（実教出版） ・授業プリント等

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	農業土木設計	2	3年	環境科学科 (環境土木コース)	全員

学習目標	・ はり構造を理解し、はりの断面に生じる力やたわみの大きさなどの計算方法を習得する。 ・ 柱構造を理解し柱に生じる力の計算方法を習得する。 ・ トラス構造を理解し、トラスに生じる力の計算方法を習得する。
授業計画	1学期 1 はり 1) はりと外力 2) はりの計算 3) はりの設計 2学期 2 柱 1) 短柱と長柱 2) 偏心荷重の作用する短柱 3) 長柱 3学期 3 トラス 1) トラスの構造と特徴 2) トラスの応力解法
学習方法と アドバイス	・ 事前に教科書を読んでおき予習しておこう。 ・ きちんとノートを取り、復習やテスト勉強に役立てよう。 ・ 練習問題を多く行い、理解を確実なものにしよう。 ・ 問題等で電卓での計算技能の向上を図ろう。 ・ わからない点を先生や友だちに教えてもらい、理解しておこう
評価の観点と 方法	「農業土木設計」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】学習に関心を持ち、学習意欲を持って授業に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】問題解決を目指し、基礎基本的な知識や技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているか。 【技能】基礎的・基本的な知識を身に付けその技能を適切に活用しているか。 【知識・理解】設計の知識を記憶し、その意味を正しく理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、ノート、提出物、学習態度等を総合的に評価します。
使用教材	「農業土木設計」(電機大)

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	農業土木設計	2	3年	環境科学科 (環境土木コース・就職)	選択

学習目標	・鉄筋コンクリートの特性を理解し、断面の決定を合理的に行うことができる。 ・鋼構造の設計についての基礎を習得する。 ・鉄筋コンクリートの設計計算の基礎を習得し、応用できる能力を養う。 ・土木構造物の設計についての基礎を習得する。	
授業計画	1学期 1 鉄筋コンクリート構造 ・鉄筋コンクリートの特性 ・許容応力度設計法 ・限界状態設計法 2学期 2 鋼構造 ・鉄筋の一般構造細目 ・鋼構造と鋼材 ・鋼部材の接合 3学期 3 農業土木構造物の設計 ・基礎工 ・擁壁 ・水利構造物	
学習方法と アドバイス	・事前に教科書を読んでおき予習しておこう。 ・きちんとノートを取り、復習やテスト勉強に役立てよう。 ・図面を多く書き、製図の技能の向上を図ろう。 ・問題を行い、設計計算の技能を習得するようにしよう。	
評価の観点と 方法	「農業土木設計」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】学習に関心を持ち、学習意欲を持って授業に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】問題解決を目指し、基礎基本的な知識や技術を基に適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているか。 【技能】基礎的・基本的な知識を身に付けその技能を適切に活用しているか。 【知識・理解】設計の知識を記憶し、その意味を正しく理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、ノート、提出物、学習態度等を総合的に評価します。	
使用教材	農業土木設計(電機大)	

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	農業土木施工	2	3年	環境科学科 (環境土木コース)	全員

学習目標	・基礎工の種類と特徴ならびに工事条件に応じた適切な工法を理解する。 ・路盤・路床、排水路、道路付帯構造物などの施工方法を理解する。 ・ダム工、水路工、トンネル工などの施工方法を理解する。 ・工事の運営組織、設計図に伴う工事の仕様、品質管理と工程管理等を理解する。
授業計画	1学期 4 基礎工 基礎工の種類と特徴、地盤の改良、根掘工、杭基礎工・ケーソン基礎工 5 道路工 アスファルト舗装、コンクリート舗装、道路付帯構造物 2学期 6 いろいろな施工技術 ダム工、水路工、トンネル工、橋梁工、上・下水道工 3学期 7 利水と治水、かんがいと排水、水の有効利用と水質保全
学習方法と アドバイス	・基礎的な用語や使用機械名など、関連した事項をノートやプリントにきちんとまとめよう。 ・授業を大切に、粘り強く学習することを心がけよう。 ・農業土木構造物の調査や見学を通して、具体的に学習するようにしよう。
評価の観点と 方法	「農業土木施工」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】土木施工に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】問題解決をめざして、思考を深め、基礎基本的知識を基に判断し表現する能力を身に付けているか。 【技能】基礎基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】土木施工に関する知識を十分に身につけているか。 定期考査（年5回）ならびに小テストの成績、レポートなど課題の提出状況、ノートや配布プリントの記録状況、講義や実習への取り組みと態度などを総合的に判断して評価します。
使用教材	・農業土木施工（実教出版） ・実習プリント ・授業プリント等

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
農業	水循環	2	3年	環境科学科 (環境土木コース・就職)	選択

学習目標	土木設計に必要な知識と技術を習得し土と水の基本的性質と構造物の特質を理解するとともに、目的に応じて、自然環境と調和した農業土木構造物を設計する能力と態度を養う。				
授業計画	1学期 1. 水の基本的性質 ・水の物理的性質 ・静水 ・水の流れ 2学期 ・管路 ・開水路 ・オリフィス・せき 3学期 2. 土の基本的性質 ・土の強さ ・土圧				
学習方法と アドバイス	・事前に教科書を読んでおき予習しておくようにしよう。 ・きちんとノートを取り、復習やテスト勉強に役立てよう。 ・練習問題を多く行い、理解を確実なものにしよう。 ・問題等で電卓での計算技能の向上を図るようにしよう。 ・わからない点を先生や友だちに教えてもらい、理解しておくようにしよう。				
評価の観点と 方法	「水循環」では、以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】学習に関心を持ち、学習意欲を持って授業に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】水理や土質の問題を考えて、正しく解答できるか、適切に表現できるか。 【技能】基礎的・基本的な技術を身に付けその技術を活用できるか。 【知識・理解】水理や土質の知識を記憶し、その意味を正しく理解しているか。 以上の観点から、定期考査を中心に、ノート、提出物、学習態度等を総合的に評価します。				
使用教材	・水循環(電気大) ・授業プリント等				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
工業	社会基盤工学	2	3年	環境科学科 (環境土木コース)	選択

学習目標	・われわれの産業や生活に不可欠である社会基盤施設の構造と機能について習得する。 ・治水・利水について効果的な計画方法について習得する。 ・都市計画の内容及び都市環境の保全方法について習得する。
授業計画	－ 1 学期－ 第 1 章 暮らしと社会基盤 ・社会基盤の整備と土木事業 ・暮らしを支えてきた土木技術 ・国土計画と社会基盤の整備 第 2 章 交通・運輸 ・交通、運輸のあらまし ・道路、鉄道、港湾、空港 － 2 学期－ ・都市交通施設 ・交通、運輸の環境対策 第 3 章 治水・利水・水環境 ・水と人とのかわり ・治水、利水、生活用水と排水 ・水環境の保全と回復 － 3 学期－ 第 4 章 暮らしとまちづくり ・都市と都市計画 ・都市の再生 ・エネルギーの整備 ・災害と防災 ・循環型社会の形成
学習方法と アドバイス	・授業を大切に、粘り強く学習することを心がけよう。 ・ビデオや新聞等を活用するとともに、身近にある土木施設を教材にして学習する。
評価の観点と 方法	「社会基盤工学」では、以下の 4 つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 積極的に授業に参加し、学習内容を理解するよう努力しているか。 【思考・判断・表現】 問題解決をめざして、思考を深め、基礎基本的知識を基に判断し表現する能力を身に付けているか。 【技能】 基礎基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 様々な社会基盤施設の構造や機能について、専門的な知識と技術の総合化を身に付け、理解できているか。 以上の観点から、定期考査（年 5 回）の結果、授業の取り組みと態度、理解度をみるための小テストの結果、ノートや課題などの提出状況などを総合的に判断して評価します。
使用教材	社会基盤工学（実教出版） 学習プリント

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期中間		
1 学期期末		
2 学期中間		
2 学期期末		
学年末		

3年組番	氏名
------	----